

ちず☆ちづ朝市

主任研究員 倉持裕彌

1. 事業の背景

鳥取市にある智頭街道商店街は、その名の通り、県南部にある智頭町と国道53号（智頭街道）でつながっている。その名称のつながりを活かして、智頭町の農産物を軽トラに乗せ、智頭街道商店街で販売する軽トラ市を開催している。とっとり総研は初回のみ、チラシ等広報費用を負担し、事業支援を行った。2010年度の開催については以下の通り。

- ・2009年度に実施したとっとり総研支援都市農村連携事業「ちず☆ちづ夕市」の実績に基づいて、智頭町を中心に、智頭街道「きなんせ広場」において軽トラ朝市を開催。
- ・智頭街道商店街振興組合はノボリの設置、広報などで開催に協力。
- ・とっとり総研は、引き続き出店者のデータ収集を行った。

2. 事業内容

2010年度は、9月、10月、11月のそれぞれ第4日曜日を開催日として、計3回、午前中に開催した。このための広報費は智頭町が負担している。調査結果も含めた開催概要および結果は以下の通り。（表参照）

- ・各回とも出店台数は10台～15台
- ・総売り上げは23万～27万円の間。
- ・会場や出店料（1000円徴収）、開催時間についての評価は高い。（出店者）
- ・費用対効果については半数の出店者が効果を感じない（評価できない）としている。
- ・来年度以降の継続意向は強い。

なお、費用対効果については、売れ残った商品の扱いをどうするか、などといった課題があげられた。

これ以外に、朝方に買い物に来るのは、高齢者が多く、家族連れなど比較的若い世代は、10時以降に来る傾向が見られた。

3. 効果・評価

この軽トラ市は、あえてイベント色を抑え、山間部で採れた米や野菜、加工品の良さを売りにして実施している。智頭町や商店街、出店者の市にかかる労力を最小限に抑えるための工夫である。当然、飲食の提供やイベントによって人を集めることは可能だが、それでは継続することが負担になると考えられた。来年度も開催したい意向があるのは、こういった工夫によって負担が少なくて済んでいることも大きな理由だろう。



きなんせ広場で開かれた今年の「ちず☆ちづ朝市」

今年度は若桜街道でも若桜町や八頭町とつないだ「市」を実施しており、「ちず☆ちづ」の実績が他の事業に波及している様を見ることができた。

なお、今年度の「ちず☆ちづ朝市」の出店料から、智頭街道商店街の活性化の取り組みである「五臓圓ビルを保存活用する会」に寄付が行われた。商店街の活性化はこの事業が持つ目的の一つであったが、このように具体的に結実することは想定していなかった。

	売上金額（円）			会場	出店料	時間	費用効果	継続意向	出店可能月
	9月	10月	11月						
A	55,000	25,000	48,000	△	○	○	×	△	9・10・11月
B	38,000	43,000	55,000	○	○	○	×	○	5・10・11・12月
C	38,000	28,000	17,000	○	○	○	×	△	6～11月
D	28,000	24,000	33,000	○	○	○	△	○	9・10・11月
E	23,000	20,000	20,000	○	○	○	△	○	5～12月
F	22,000	35,000	38,000	○	○	○	×	○	3～12月
G	14,000	18,000		○	○	○	○	○	月1回
H	13,000	37,000	15,000	○	△	○	△	○	年中可
I		19,000	23,000	○	○	○	○	○	9・10・11・12月
J			18,000	○	○	○	×	○	9・10・11月
	231,000	248,000	267,000	○	○	○	△	○	9・10・11月

ちず☆ちづ朝市の開催結果。表中の○は評価できる、△はどちらともいえない、×は評価できないを示す。なお、売上金額は一部加工してある。